
プライマル。
ⓟⓡⓘⓜⓐⓛ
ADULT ONLY


魔理沙が幻想郷からいなくなったらの話。
私と霖之助さんはどういう関係にあるのだろう。

プライマル。


雪の降る冬らしい寒い午後
こんな日は客が来ない
もっとも――
元々流行ってるわけでもないので当たり前と言えば当たり前だけれど
彼女がいなくなってから
今はもう騒がしかったあの少女達もめったに顔を出さなくなったし
もうっ イヤになっちゃう
急に振り出して来るんだから・・・
ただ一人をのぞいて――



博麗 霊夢
お湯加減はどうだったかい？
ん
いい湯で気持ちよかったわ
ありがとう霖之助さん♪
のどいても良かったのだ♪
まったく・・・
だって ここのお茶おいしいんだもの・・・
君も物好きだねこんな寒い日にやって来なくても・・・
霖之助さんだって私みたいな美女が来てくれるなんて嬉しいでしょう？
おいおい
この子だけは今も繁栄に僕の元を訪ねに来てくれる
客と呼べないのは今も昔も変わらないが・・・
もっとも――
ーってわけで
色々買っていくわねー
だが断る
え――
ケチ・・・・


――けれど
この子はこの子なりに僕を心配してくれているのかもしれない・・
――それともこの子もまた『寂しい』と僕にすがってくれているのだろうか？
・・・
ねぇさっきから何読んでるの？
ひょい
ん？
あぁ・・大人向けの本さ
え
何ソレ
Hな本？
ははっ
そうだね君にはちょっと難しいかもしれないね
何よソレ・・
ムー・・っ
私だってもう色々子供じゃないんだけどなぁ・・・
外見じゃなくて中身の問題だよ
・・・それってもしかしなくても私の事バカにしてる？
あはは そうかもしれないね
むぅ・・・
でも本当の事だろう？


ふんっ・・・
私だって別に霖之助さんにほめてもらおうなんて
ブツブツ
ズズ…
・・・・・・
はぁ
困ったなぁ・・・
コトン
だけどね霊夢？
君はまだまだ子供だけど・・
僕はとっても綺麗になったと思うよ
!


――――っ
り、霖之助さんに言われてもあんまり嬉しくない・・・
ぶっ
君のそういう所は可愛いと思うけどね
むぅ・・・・
霖之助さんって昔からちょっと意地悪よね・・・
それより随分片付いたのね綺麗になっててビックリしたわ
あぁ いつまでも散らかったままじゃアレだからね
そうねー 私も本当にHな本とか出てきたらどうしようかと思っちゃった
おいおい あんまり漁らないでくれよ?
・・・・・
アレ まだ持ってたんだ・・・
八卦炉
え?
あ、あぁ・・・
それは色々便利だからね たまに使うんだ・・・
彼女のとても大切な物
ふーん
そうなんだ・・・・
きっとウソ――

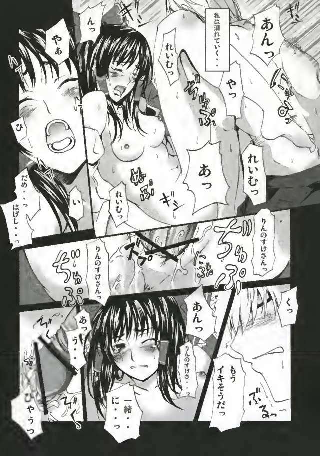

彼は彼女のことに少しでも触れるとすぐあんな顔をする
きっとあの八卦炉も彼女との思い出を忘れたくないからだろう・・・
——でも
私も彼を責めることはできない
きっと私も今彼と同じような顔をしているから
けれど・・少し悔しいのでちょっと意地悪な質問をしてみる
ねぇ霖之助さん
なんだい？
私のこと・・・
好き？
・・・・・・あぁ
——彼の少し困った顔
好きだよ
そう・・
ありがと
それがとても可笑しくて——


彼が子供のように見えて
私の心を切なくする・・・
ねぇ、霖之助さん・・・
スル…
愛が・・
誘うのはいつも私──
欲しいです・・・・


霊夢・・・
こんなことでしか 彼を繋ぎとめて おけない私は 哀れだろうか
それとも卑怯？
でも それでもいい
彼が少しでも 私のことだけを 見てくれるのならば・・・
今日は どうしたんだい？ 何かあったのかい？
ううん 別に何もないけど・・・


ドキ
ドキ
今は・・・
そういう気分なの
へぇ・・・珍しいこともあるもんだね
・・・・
ぐい
あっ・・・
ってちょっと待ってっ何するのっ!?
え!?
や、やだぁ・・・
カァーッ
んっ
ちょっとぉ
あ、あんまり見ないで霖之助さん・・・
恥ずかしい・・・
ぐにゅう
くぱぁっ


ダ、ダメよ そんなとこっ
レロ。
ちゅる
んっ
ちゃぷ ちゃぷ
やっ
ひっ
あんっ
ーっ
あぁっ
はぁ
・・・挿れるよ霊夢?
はぁ
うん・・
ーーーっ
あっ
んっ・・・
大丈夫かい・・?
彼の優しい言葉
うん・・
まだ慣れないけど大丈夫
それが嬉しくて切なくて
来て・・霖之助さん
霊夢・・・


私は溺れていく・・・
あんっ
ギシ
れいむっ
やっ
にゅるっ
ぢゅぷ
んっ
やぁ
ハァ
ひ
だめ・・っ
はげし・・っ
い
れいむっ
あっ
ぬぷ
ギシ
れいむっ
りんのすけさんっ
ぢゅぷ
にぷ
ズブ
りんのすけさんっ
ぢゅぷ
あんっ
くっ
あっ
う・・
りんのすけさ・・っ
もう
イキそうだっ
ぶるっ
一緒・・
に・・っ
ひゃうっ



あぁあああ――――っ
ビクンッ
ビクンッ
ドプッ
ドプッ
ん・・・っ
りんのすけさん・・・・
くちゅ・・・
ドプッ
バカ・・・・


・・・
ねぇ 霖之助さん？
アレ 貰っていい？
・・・え？
・・・
クス
ウソよ あんなの持ってても食べられないし
そろそろ帰るわ
え？もう帰るのかい？
神社まで送っていこうか？
うぅん
大した距離でもないから大丈夫


・・・
霖之助さん？
ウソツキ・・・・・

バカ。


私はずっと考える
彼女が私の心を知ってしまうとどう思うだろうか？
雪・・・
止まないな・・
『バカだな』って笑ってくれるだろうか？
それとも顔を真っ赤にして怒ってくるだろうか？
何もかも彼女に勝っていたつもりだったけれど・・・
とうとうこれだけは勝てなかったみたいだ



きっと彼も彼女も
私にそれでも
優しくして
くれるだろう
心から
仲良くだって
してくれる
けれど
私には彼女という
存在が大きすぎて
・・・
私に写る
貴方はいつも素敵な笑顔で
いつも一生懸命で可愛くて
私の心に影を作る
――あぁ 魔理沙


私は貴方が大好きで
大嫌いだわ

【あとがき】
どうも双です。
久々にあとがきする時間があります。
計画的って素晴らしいっ！
ネチョ本って楽しいですね。
霊夢ってなんだか虐めたくなりませんか
ならないですか、そうですか。
〆切前の修羅場になると
近くの自販機でBOSSを端から端まで全部買います。
自販機に1500円程突っ込むちょっとした冒険。
コンビニで2000円使ってフルコース作るとか
オロ〇ミンCを飲めるだけ飲むとか
死ぬまでにやってみたくありませんか
ないですか、そうですか。
あぁ、今日もBOSSがうまいなぁ。


ち○こしまえっ
ねれっ!!